



輝け！北っ子

平成30年2月19日発行

特集号

発行責任者 紺野 宗作

第1回二本松北小学校の教育を語る会

子どもの「生きる力」は、多様な人々とのかかわり、様々な経験を重ねていく中で育まれるものです。学校だけで育まれるものではありません。子どもは地域社会とのつながりの中で、絆を育み、豊かさ・たくましさを身に付けていきます。つまり、子どもの確かな育ちを保障するには、信頼できる大人とのかかわりが不可欠と言えるでしょう。また、現在の学校の抱える課題を解決していくためにも、学校・家庭・地域がそれぞれ役割を果たしつつ、社会全体での教育の実現が必要だと感じています。

このような思いから、このたび、学校と地域の協働への気運を高めるために「第1回二本松北小学校の教育を語る会」を開催いたしました。学校職員、保護者、地域の方々30名に参加いただき、ワークショップ型の話し合いを行いました。テーマは、「北小の子ども達にどう育ててほしいか」です。学校及び地域の様々な立場の方たちと一緒に子どもの未来を語り合うことができ大変有意義な時間となりました。学校と地域の協働体制の確立に大きな一歩を踏み出すことが出来ました。



「それぞれ異なる立場から子どもの将来について語り合う参加者たち」

日時 2月14日（水） 場所 勤労者研修センター

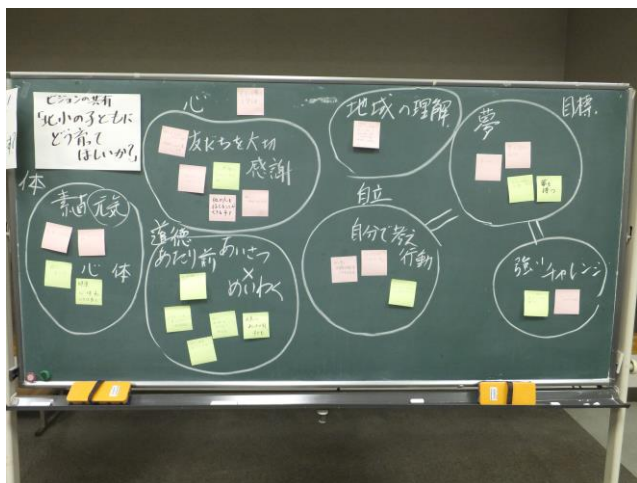
ワークショップの概要

（1）アイスブレイク

初めてお会いする方も多いため、最初にあいさつゲームを行いました。3分以内に2人組になってじゃんけんしながら自由に動き回り、できるだけ多くの人とあいさつを交わすというゲームです。緊張感をなくし、安心して発言出来る雰囲気をつくり、話し合いをスタートしました。



(2) ビジョンの共有 (*ビジョンとは、将来の構想や展望という意味)

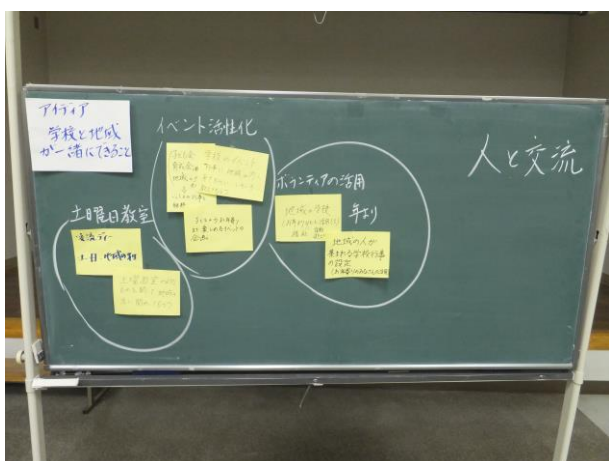


参加者全員がビジョンを共有するために「北小の子どもにどう育てほしいか」というテーマで話し合いました。ここでのグループトーキングは大変盛り上がり、活発な話し合いとなりました。「夢や目標を持ってたくましく育てほしい」「強い心・チャレンジ精神を持ってほしい」「自立・自分で考え自分で行動できる人間になってほしい」「友達を大切にする思いやりのある大人になってほしい」「当たり前のことが当たり前出来る人になってほしい。あいさつなど・・・」「素直で元気で心も体も健康に・・・」「地域の歴史などの理解を深めてほしい」・・・

校長が、参加者が提示したビジョンをグループ分けしました。この活動を通じて参加者から多く聞かれたのが、立場が異なっても「子ども達への気持ちや願いは一緒」という声です。学校と地域でビジョンを共有することが出来ました。

(3) アイディア出し

次に、学校と地域と共有したビジョンを中心に、学校と地域が一緒になって出来ることを考えました。



各グループの教職員に積極的に学校での子どもの実態を話してもらい、課題を掘り起こしながら一緒にできることのアイディアを出し合いました。なかなかアイディアが思いつかないグループもありましたが、子どものために地域と学校で協働できることは何かと言うことを真剣に話し合うことが出来ました。次に、各グループから具体的な案を1つか2つだけを発表してもらいました。「地域と学校が一緒になって行っているイベント等を活性化させたい」「ボランティアの活用を進めたい。特に地域のお年寄り」「土曜教室を開催してはどうか」などのアイディア

が出されました。いずれのアイディアも「人と交流」が共通していることです。共有されたビジョンを実現するためには、多様な人々とのかかわり中で実現していくものだということが共通認識することが出来ました。

(4) ふり返り

最後にふり返りシートを通して、今回の語る会を振り返りました。「これからも学校と連携して子ども達のために何ができるか考えていきたい」など、参加者全員から前向きな感想をいただきました。そして、子どもの成長には人とのかかわりが大切であることを再認識しました。まずはボランティアの発掘から始めたいと思います。

第2回目は、テーマを「子どもの安全」という内容で開催する予定です。日時が決まりましたらご案内いたしますので、参加したいと思われる方は是非ともご参加ください。